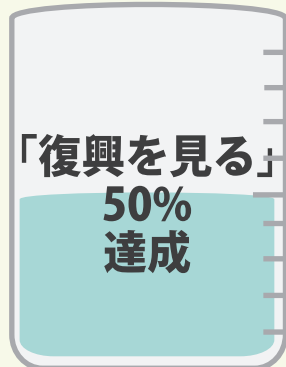


佐藤 竜也 (B 班リーダー)
Ryuya Sato
岩手県立宮古工業高等学校 1 年生

私の応募動機

同じ「津波の被災地」という共通点があるので、少しでも交流を深めて地域復興に役立てていきたいと思っています。特に、インドネシアの高校生の姿を見て自分の高校生活を少しでも有意義に出来るように学びたいです。

私の目標と目標達成度



「研修に参加して」

今回の研修に参加して、自分の将来の夢そして夢への取り組み方考え方が変わりました。

インドネシアに行くまでの、自分の将来の夢は工業高校なので、機械関係の仕事をしたかったです。でも、今の夢はNGOのグッドネーバーズに入る事です。なぜなら、インドネシアに行ってインドネシア語が分からない時に、高久さんが話の内容を教えてくれたり答え方を教えてくれました。そして、スタッフさんの子どもへの接し方などを見て自分もあんな風になりたいと思ったからです。少しでも、それに近づきたくて今はボランティアなどにも、積極的に参加するようになりました。この研修をやる前はボランティアなどにも全然興味を持たず、暇があれば遊んでいる日々でした。でも、今はしっかりと夢があるために、遊びの時間を減らしてボランティアをしています。例え、グッドネーバーズに入れなくても NGO 関係の仕事について、この研修と今までしてきたボランティアを活かしていきたいです。

これからも、一生懸命にボランティアなどを頑張っていきたいです。本当に、この研修に参加させていただきありがとうございます。

宣言「私は動き出す！」

ボランティアを積極的にする。

菊地 色 (B 班サブリーダー)
Shiki Kikuchi
岩手県立遠野高等学校 1 年生

私の応募動機

インドネシアの復興について、興味がわいたからです。初めは学校にあった案内を見て、インドネシアはどんなところだったかな？と、ふと調べてみました。すると、人口や言葉の他に地震で被災した、という記事を見つけました。そこから、もう一度学校でよく読んで、行ってみたいと思いました。また、初めてインドネシア語という言葉を知り、言葉にも興味をもったことが今回応募する理由です。

私の目標と目標達成度



「研修に参加して」

私はこの研修に参加して、内陸に住む私が知らなかった沿岸に住む人の気持ちを、インドネシアに行くことで知ることができました。知った上で、これから高校生として何をしていくべきなのか、もっと考えなければいけないと思いました。

渡航前の三回の事前研修では、復興とはどのようなことをいうのか、コミュニケーションや人の心について、またインドネシアの文化など、たくさんの人の協力を得て学びました。なかでも、[自信はなくてもいいから、とにかく行動することが大切だ]という事を、本研修でも様々なところで実感しました。

本研修は、一日一日がとても充実していて、どこに行っても学ぶ事がたくさんありました。前半はスマトラ島沖地震の被災地であるバンダ・アチエやムラボで、当時の状況を、津波ミュージアムや残されている船、被災した方のお話から詳しく知りました。日本と比べると、亡くなった人の扱いが全く違い、身元が分からなくても土葬してしまう状態には驚きました。

また、日本の東日本大震災の被害を伝えるために、日本を紹介する発表を班ごとに行いました。私の班はスカブミ高校との交流の中で行いました。生徒たちは真剣に話を聞いてくれて、気持ちを共有できたことが心に残るほど嬉しかったです。

ホームステイでは、英語を使うことに不慣れな私でしたが、大切なのは伝える気持ちだと、それまでの研修を通して分かったので、自分から話しかけたりもしました。インドネシア語を使うことも交流に繋がると思ったので、たくさん会話するように心がけました。

私は次世代である私達が、これからどのように小さなことでも積み重ねて行動するかで、未来が変わると思いました。高校生の私ができることから少しずつ始めていきたいです。

宣言「私は動き出す！」

伝える。

坂本 那奈恵
Nanae Sakamoto
岩手県立釜石高等学校 2 年生

私の応募動機

私は将来、国際関係の仕事に就きたいと考えています。しかし、具体的にはまだ決まっていません。そのため、この研修に参加し、今までに経験したことのない様々な体験をすることで将来の選択肢が増えるはず。さらにその経験は、必ず自分の糧になり、変わることができると思います。したがって、この研修への参加は、私にとって夢を実現させる大きな一歩になると考え、応募を決意しました。

私の目標と目標達成度



「成長する」
100%
達成

「研修を通して得た物」

本当の復興とは何か。今回の研修に参加することで自分なりの答えを見つけ出すことができました。私は「1人1人の小さな力」だと考えます。1人の力がどんなに小さくてもそれが集まり1つの大きな力になれば何かを成し遂げられるはず。このように考えるのは、現地通訳のアハマッドさんの言葉に強く心を打たれたからです。彼は「高校生の私たちに今できることは何か」という質問に「自分が豊かでない時に他人のことまで考えられない。だからまず自分を豊かにすることだ。」と答えました。今の私にできることはどんなに小さなことでも積極的に行動し、今後自分が何かを成し遂げるための力を培っていくことだと思います。私が行動に移すことで同じ思いを持った人が集まり、大きな力になることを願っています。

私はこの研修を通して、伝えることの重要性を学びました。インドネシアでは、実際に被災した方々の話を聞くことができました。涙ながらに話す人もいて津波の悲惨さが身に沁みて伝わりました。私も、同じ過ちを繰り返さないように自分の経験を少しでも多くの人に伝えていこうと思います。

今回の研修でのたくさんの出会いはこれからも大切にしていきたいです。研修を共にした15人の研修生とは、復興世代の高校生としてこれからも様々な場面で協力していきたいです。インドネシアの人との、言葉や文化の壁を越えた交流もとてもいい経験になりました。最後に今回の研修を企画・支援してくださった、ベネッセさんとグッドネーバーズの方々には本当に感謝しています。この研修で得たものは私の一生の財産です。ほんとうにありがとうございました。

宣言「私は動き出す！」

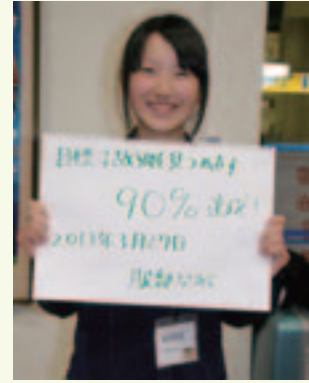
自分から積極的に活動に参加する。

服部 なみえ
Namie Hattori
岩手県立宮古高等学校 1 年生

私の応募動機

応募する理由としては主に2つあります。まず1つ目は、昨年の東日本大震災で私自身も震災の恐ろしさを肌で感じ、いまだ三陸の復興についても知らない部分や課題があるので、研修を通して発見できたらと思ったからです。2つ目は、以前から海外研修に興味があったからです。英語は流暢ではありませんが、海外という広い視野からたくさんの人々と国境を越えてコミュニケーションを取り、友情を深めていきたいと考えています。

私の目標と目標達成度



「故郷を
見つめ直す」
90%
達成

「ふるさとと私の再出発」

あの東日本大震災から約2年が過ぎました。私の住む宮古市も被災しました。私がこの研修に応募したのは、生まれ育ってきた宮古の町のために力になりたいと思ったためです。

第1回の研修から自分たちにとっての復興を改めて考えてみました。すると自分が思っていた以上に、復興という言葉がとても曖昧なものだと感じました。

インドネシアの本研修ではインドネシア被災各地を巡りました。

アチエの津波ミュージアムで、私はスマトラ島沖地震の記録を目の当たりにしました。衝撃的でした。遺体の写真は遺体を黒く塗りつぶされてはいませんでした。19メートル上から水が流れるブースもありました。日本では倫理的に考えられないような、その記録の“方法”でした。アチエはもはや観光地として成り立っているようです。こんなにも被害は大きいのに、簡単に割り切れてしまうのかと驚きました。日を重ねて、色々な所をみたり聞いたりするうちに、そのイスラムの独特な考え方があるのに気づきました。

このようにスマトラ島沖地震のことを学び復興の様子を見てきましたが、町は私が想像していた以上に活気がありました。みんな悲しい思いを経験していましたが、それ以上に未来へと語り継ぐ活動は活発に行われていました。それは町の人々の笑顔の背景なのではないかと思っています。

三陸には、世界に誇れる海産物や綺麗な景色が、沢山あると私は思います。いつか三陸を訪れてくれる人のために、私たちが町のことをPRしていきたいです。私がこの研修で見つけた復興とは、“被災地に来たいと思える町づくり”としました。

宣言「私は動き出す！」

復興庁や市役所が知る復興状況と
その復興の定義について教えてもらう。

佐々木 奏
Kanade Sasaki
岩手県立山田高等学校 1年生

私の応募動機

インドネシアのスマトラ島は2004年、私たちの住んでいる山田町より8年前に津波の被害を受けました。そこで復興のあり方や暮らしぶり、現在の観光地の状況などを見たいと思いました。山田町は津波の被害をうけても、必ずきれいな海に戻って、またにぎわう観光地になると信じています。そのためにも、自分の目で見て学びたいと思いました。

私の目標と目標達成度



「インドネシアに行って感じたこと」

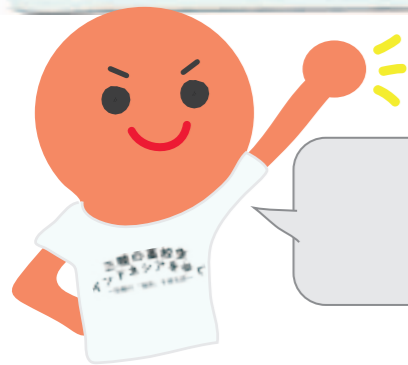
私はインドネシアに行って自分の世界観、視野が広がったと思います。同じ被災地で復興を探る旅ということで行って見て、日本とは考え方が違っていました。私が一番印象に残っているのは、震災前のインドネシアは独立しようと内戦がたえない危ない国でした。ですが震災にあつてからは、そう言う考え方をする人が亡くなったり、外国からの支援により道路ができた、家ができたので震災が来て、良かったと思っている地域がありました。他にも震災が来たのは神様のおぼしめしだから仕方ないと思っている所もありました。私は、インドネシアに行くまで震災が来てやっぱり日本と同じように辛い思いをしているのだと思っていたので、国や地域によって考え方が違うことにすごく驚きました。

インドネシア研修のメンバーとの話合いでも人によって見方がちがうし、思っていることも違っていたので、自分の思っていることしかなかったのを聞いて、なるほどなとか、そういう考え方もあるんだなと思うことがたくさんあったので自分の視野が広がってっておもしろかったです。

行く前は自分にとっての復興は、建物が修繕したりすることでしたが、帰ってきてからは、人々の気持ちが一つの目標にむかって一つになることだと思えるようになりました。

行く前の自分と帰って来たときの自分は良い意味で変わったと思います。これからの目標もはっきりとしたし、やっていくことがわかりました。

これから、この気持ちと経験を生かして将来につなげていきたいと思っています。



宣言「私は動き出す！」

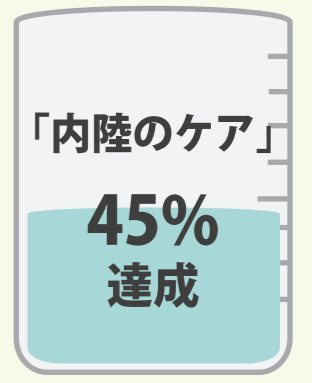
ボランティア活動に積極的に参加していく。
友達も誘ってできるだけ多くの人
が参加してくれるように呼びかける。

小原 伊織 (C班リーダー)
Iori Obara
岩手県立花巻北高等学校 1年生

私の応募動機

私は小学校時代の大半をマレーシアで過ごし、2004年のスマトラ島沖地震による津波を経験しました。まだ幼く、小さかった私は良く理解できずただただテレビで流れる津波の放送を見ていました。思い出深いマレーシアと共通点の多いインドネシアに行く機会はそうそうありません。今回のこの活動を通じて1つでも2つでも、深い傷を負った被災者の方々のためになりたいと思い、この活動の事を知ってすぐに連絡をさせて頂きました。

私の目標と目標達成度



「インドネシア研修を経て」

私がこの企画に参加した理由は、私が過去にマレーシアのペナン島で5年間を過ごし、あのスマトラ島沖地震を実際に体験した事、そして、インドネシアにもまた、特別な思い出があった事が私の参加理由です。2004年の12月26日、私が家族と朝ごはんを食べに出掛けようとした時でした。私の住んでいたマンションが大きく揺れ、沢山の人が部屋から飛び出してきました。私は急いで階段を下り下の階に向かいました。その日の午後、昼寝をしていたので異変には気が付きませんでした。夕飯を食べに出掛けようとした時でした。海岸沿いの道に出た時、道路脇には大小様々な瓦礫が転がっていました。初めは津波が来たなどとは見当もつきませんでした。なので、ニュースを見た時は驚きました。そこに写っていたのは、見た事のある近所のホテルで撮られた津波の映像でした。そして、その迫力をはるかに凌ぐ震源近くのインドネシアの海沿いで撮られた映像がひたすら流れていました。幼かった私には現実の物とは思えませんでした。

そして、2011年3月11日午後2時46分。あの時の記憶がフラッシュバックしました。家にいた私を襲った大きな揺れと、三陸海岸に繰り返し押し寄せる大きな津波の映像の何もかもが同じでした。その時、私は被災地に対して人一倍強い感情を持ちました。そして、参加したのが今回のインドネシア研修です。初めの事前研修でのメンバーとの顔合わせはとても緊張して、まともに会話などは出来ませんでした。以降、会を重ねる度に仲間との信頼が深まって行きました。

遂に迎えた出発の日には1人1人がそれぞれの研修での目標をたてました。私は「内陸の復興について学ぶ」を目標とし、今回の研修に臨みました。私は数少ない内陸からの参加者でその事をハンディキャップに感じる事もありましたが、内陸の人に現状を伝えたいと思い全力でこの研修に打ち込みました。インドネシアでの本研修では復興した街並みを見学したり、文化の違いによる被災に対する考え方の違い、食文化の違いなどを体験したりしました。食文化の体験では手でご飯を食べたり、下町の市場を見学したりと普通では経験出来ないような事を経験し、とても内容の濃い研修にすることが出来ました。また、高校訪問ではスポーツ交流会を行い、親交を深めました。そして、とても印象的だったのはホームステイです。ホームステイは初めてで、2日間を乗り越えられるか不安でした。しかし、ホストファミリーはとても気さくな人で、凄く気を使ってくれました。

このように今回の研修は楽しい事、辛い事、そして、ためになった事が書き切れない程多くありました。私が初めてたてた目標はまだ達成していないと思います。達成度を100%に近づける為にも、これからも様々な活動に参加したり、溢れる情報をよく選り取り、本当の現状を知らない人に伝えていきたいと思っています。

このような貴重な体験は身近な友人などにもして欲しいと思うので勧めたり、誘ったりして行きたいです。この度は、この貴重な機会を与えて下さった方々にとっても感謝しています。



宣言「私は動き出す！」

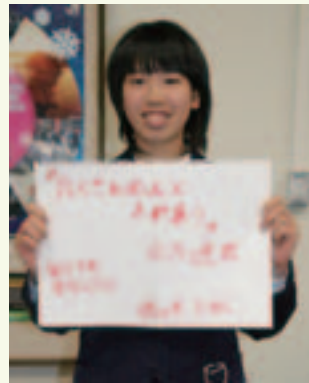
内陸で行われている活動に参加すべく、
まず、その活動の実態を調べる。

佐々木 志帆 (C班サブリーダー)
Shiho Sasaki
岩手県立宮古高等学校 1年生

私の応募動機

私は自分の住んでいる山田町が大好きです。私は将来山田町の役場に就職し、まちづくりのために働くということを目指して高校生活を頑張っています。そんなときに、この研修の募集を見て、同じように被災をしたインドネシアへ行き、現地の方と交流することで、これから自分の町や自分の将来のためにできること、必要なことが学べると思い応募しました。

私の目標と目標達成度



「たくさんの人とふれあう」
80%
達成

「研修に参加して」

今回の研修を振り返ると、思い出が数えきれないほど頭に浮かんできます。復興をテーマにたくさんのことを見て聞いて体感していく中で、すばらしい経験ができました。

特にインドネシアの被災地で現地の方に話を聞いたり、実際に被災にあった場所や建物を見たことは、自分の復興への考えをさらに深くさせてくれたよい経験となりました。その中でもインドネシアはがれきの撤去にかかったのは1年だけで日本のがれき撤去までにかかる時間の差にはとても驚きました。また、アチェの人々は津波が来たことで治安が良くなったため、津波が来たことを前向きにとらえていることにもとても驚きました。日本との共通点として、イラさんが、「津波を思い出すのがいやで内陸に移った人はたくさんいる」「経済面をもっと政府に支援してほしい」と言っていたことがとても印象的でした。インドネシアは経済的復興ばかりが目立ちました。しかし日本はこれから経済的な復興だけでなく、被災者の内面的復興にも重要視して復興を進めていく必要があると感じました。

インドネシア研修では、復興について学ぶだけでなく、地元の高中生と交流したり、ホームステイしてインドネシアの文化に触れることもできました。インドネシアの方々はとても親切で言葉が通じなくてもたくさん話しかけてくれたり、慣れないことばかりで戸惑う私にいろいろ教えてくれました。ホームステイ先の家族のみなさんには、たった2泊3日という中でもとても楽しい時間を過ごさせていただきました。お互いの家族について詳しく話したことを今でも覚えています。

この研修は終わってしまいましたが、スタッフの皆さんをはじめとするこの研修で出会った多くの方々に感謝し復興を担う人になれるようがんばります。

宣言「私は動き出す！」

自分の考える復興を実現するために必要なことを大人に話し、また、町の活動を知っていく。

信夫 茉琴
Makoto Shinobu
岩手県立宮古商業高等学校 1年生

私の応募動機

今の東日本の現状は復興の兆しが見えていません。そこで、インドネシアが今まで行ってきた復興政策やあとどれくらいの年月がかかるのかを学んでみたいと思ったからです。そして、もっとより良い復興政策を見つけ出したり、防災訓練にも、もっと違うやり方があると思うので取得してきたいです。津波の被害にあった土地を自分の目でどこまで修復したのかを見てきたいです。

私の目標と目標達成度



「未来へつなげる」
90%
達成

「繋げる」

まず、私がこの研修に参加しようと思ったきっかけは復興について、自分の住んでいるまちに何か役に立てることを見つけたいと思ったからです。

事前研修が三回行われ、様々なことを学びました。コミュニケーションの大切さやインドネシアについて、イスラム教などについてです。初めて海外へ行くこともあり、不安でいっぱいでした。事前研修の時点で考えていた復興とは瓦礫がなくなって人が増えることでした。インドネシアへ行って、津波ミュージアムという所に行きました。そこには十九メートルの波の高さを体験できる場所がありました。実際に入ってみると想像していたものよりもずっと高く、暗く、本当に怖かったです。波がこんなに高く上がるほどの威力があったこと、波に飲まれているときどれほどの恐怖を味わったのか、身を持って感じました。他にも津波が来たときの映像も見て日本の波はどんどん増えていくのに対し、インドネシアでは上から迫ってくる波で驚きました。展示してあった写真も亡くなった方の体が写っているものも多くあり、胸が締め付けられました。もし身分が確認でき、家族の人がそれを発見したらすごく嫌な気分になるし、心の傷をさらに深くしてしまうのではないかと思います。家が流されてしまったイラさんに話を聞くことができました。災害は神が与えたものだと考えている方でした。イラさんは同じ場所にまた家を建てていました。それは、とても不安で怖いと思うけど、それ以上に自分が住んでいるまちが好きだからそできることだと感じました。それは、インドネシアでも日本でも、変わらない想いだと思います。もう一人、当時の話をしてくれました。この方は津波に飲まれたけれど、どうにか船に登って助かった一人でした。この船に登って助かった人は大勢いて、家の上に乗った状態のまま止まっています。この船は今現在でも残されたままになって語り継がれていました。ホームステイも体験しました。英語だけで会話しなくてはならなくて、最初は大変でした。しかし、言葉だけで伝えるのではなく、体も使って一生懸命に伝えることが大切だと気がきました。植林体験もして、木の大切さについて学びました。自分の手で植えることによって、これから木を大事にしようと思いました。私たちが植えた木が大きく育ってインドネシアの緑が増えてほしいと思います。日本へ帰って来て、ベネッセさんへ報告に行きました。研修で学んできたことや成長したことを伝えられたのでよかったです。

私はこの研修でたくさんのことを学ぶことができました。日本や地元の人々の暖かさや四季のあることがどれだけ素晴らしいことが初めて知ることができました。事前研修の時に思っていた復興とは、目に見える復興が大事だと思っていました。しかし研修を終えてもう一度復興について考えてみると、人の心や笑顔になるなど、目に見えない所での復興が大事なんだと思うようになりました。表面上だけ綺麗に片付けて街が元通りになったとしても、人々の心の傷が癒えないままだと本当の復興に繋がらないと思ったからです。人々の心の復興のために私ができることはボランティアだと思っています。ボランティアを積極的に行って、人々に笑顔届けられるようになりたいです。また、この震災を風化させないためにも語り継ぐことが大切だと思います。なのでこれから過ごしていくなかで震災を経験していない人に語り継いでいきたいです。そして防災意識の向上や次世代にも残していきたいです。

宣言「私は動き出す！」

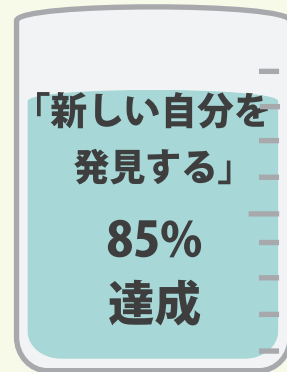
ボランティアをする。

岩間 真愛
Maria Iwama
岩手県立釜石高等学校 2 年生

私の応募動機

他国を見る事でこれからの自分に新しい何かを発見出来たらと思い、又他国と自国の違いを知り自分を見つめ直したいと感じ応募致しました。

私の目標と目標達成度



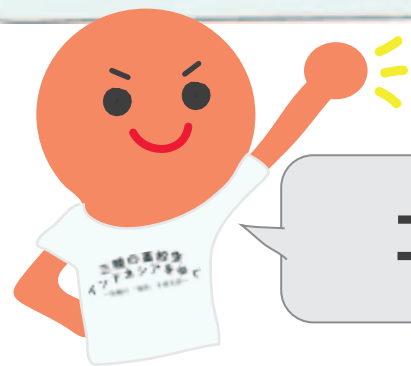
「インドネシア研修を通じて」

私は3月16日から3月27日までの12日間、「三陸の高校生、インドネシアをゆく」という研修に参加してきました。この研修に参加した理由は、外国に一度も行ったことがなかったので、これからの自分に新しい何かを発見できたらと思ったからです。また、将来看護の職に就きたいと考えていて、発展途上国であるインドネシアを見ることで医療の現状と、同じ被災地として現地の現状を知りたいと思いました。

インドネシアに行って特に印象に残ったことは、津波ミュージアムのことです。まず最初にあったのは、津波がもたらす恐ろしさを体験できる部屋です。壁からは水が上から流れていて、津波にあった人達の気持ちを体験する部屋だそうです。この部屋は、通路が狭くて薄暗く、津波の恐怖を感じました。通路を抜けると、天井にアラビア文字の書かれた部屋がありました。壁には、犠牲者の名前がびっしりと書かれてありました。ここは、津波の犠牲者を追悼する部屋だそうです。その他に、津波に関する写真や映像を見ることが出来る部屋や津波が起きた当時のことを表現した模型などがありました。

現地の人の話によると、バンダアチェはかつて、独立戦争の地でした。津波が来て治安は良くなり、津波が来て良かったと思っているそうです。紛争地から津波の教訓の町に変わろうとしています。

インドネシア研修で初めて海外を訪れ、初めて体験して得たことは、はかり知れません。私は、津波ミュージアムのような建物を地元にも建てるべきだと思いました。津波の恐ろしさを風化させないためにも必要であると考えました。今回、インドネシアの現状を知り、学んできたことを、地元の復興やこれからの生活に生かしていきたいです。



宣言「私は動き出す！」

コミュニケーションをとる。

梅木 理沙
Risa Umeki
岩手県立釜石高等学校 1 年生

私の応募動機

私がこの研修に応募をした理由は、これからの釜石のあり方について自分達で考えたいと思うからです。3月11日、私達の住む釜石にあの大津波が押し寄せ、多くの命が失われました。あれから1年以上経った今でも、復興はあまり進んでいません。そこで過去に同じような状況にあったインドネシアに行き、その地の今の現状から、今後の釜石の復興について考えたいと思い、応募しました。

私の目標と目標達成度

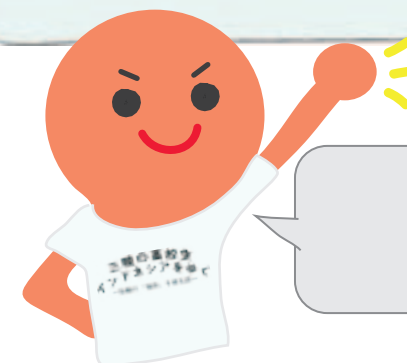


「インドネシア研修を終えて」

インドネシア研修を終え日本に帰国した際、私の心の中は達成感で満ちていました。それは、今回の研修を通して自分の考えや価値観等、様々なものが変化したからだと思います。又、私がしたい事や次にすべきこと等、これからの私の人生について新しい物が見えたからだと思います。

全12日間の日程でこの本研修は始まりました。私は海外を訪れることが初めてだったのでとても緊張していました。今まで日本という国しか知らなかった私にとってインドネシアでの生活は驚きの連続で、戸惑うことが多かった様に思います。いつもとは違う景色、何もかもが新鮮でした。「インドネシア」と一言と言っても、その地域ごとに特色があって色々なことを見たり聞いたり、経験できたと思います。私がこの研修の中でも強く心に残っているのはスマトラ島沖地震で一番大きな被害を受けたアチェという土地での体験と、現地の高校生の家に受け入れをもらったホームステイです。まず、私がアチェで強く思ったのは津波の恐怖でした。現地で見たり聞いたりしたからこそ伝わるものが多くありました。津波で流された物や、震災当時の写真が残っているだけではなく海の近くにある木の生え方が曲がっている等、自然からも津波の影響が感じられました。一方で、復興に繋がるヒントを見つけられたのでよかったです。次にホームステイ、国は違っても同年代の子たちとの交流はとても楽しいものでした。日本の高校生と同じところもあれば、宗教的なもの等、全く異なるところもあり、文化の違いに一番気付かされたところだと思います。家族の温かみに触れることもでき、嬉しかったです。

この研修に参加して、私は成長することができたと思います。今、振り返ってこのように感じることも、多くの人の支援や携わってくれた方々のおかげだと思います。この研修に参加することができて本当に良かったです。ありがとうございました。



宣言「私は動き出す！」

将来への一步を踏み出す。